

兵庫県立鳴尾高等学校

女子バスケットボール部

はじめに

平素より、女子バスケットボール部の活動にご理解ご協力たまわりまことにありがとうございます。この度、19名の新入部員を迎え、

「笑顔に勝る化粧なし」 「ねあか・のびのび・へこたれない」

の部旗のもと非常に活気づいております。ただ、こうした生徒のクラブ活動も保護者の皆様のご理解とご支援があればこそ成り立っていくものです。今回のこのプリントは、私のクラブに対する考え方を理解していただき、生徒のよりよい環境のために、そしてさらなる生徒への勇気のあとおしとなることを願い書いたものです。

コーチとして私自身がしなければならないこと

- 1) 生徒が安心して部活動に取り組めるために、環境の整理・学校の理解・親の理解を得て練習が十分にできるようにとし、兵庫県 No1 のチームを作ること。
- 2) 生徒の個性を知り、内面理解に努め心理状態を把握する。そして、生徒の持っている可能性を引き出しながら、社会に役立つ人間力、社会力を育てていくこと。
- 3) 私自身がバスケットボールのコーチングに情熱を持ち、技術・理論を身につけ、人間関係を広めていくこと。

バスケットボールの目的は、競技成績も当然大切であると思いますが、取り組んだ結果だけを求めるのではなく、取り組もうとする力を培うことです。積極的な意欲・取り組み方の力となる思考力・創造力・応用力などを身につけて充実感を得ることが重要だと思います。

鳴尾高校女子バスケットボール部員であるという所属意識を高め、「**魅力ある集団**」を皆様と一緒に作りあげたいと思います。

スポーツの素晴らしさ

「スポーツすることは素晴らしいことだ」ということは、多くの人が認めています。なぜすばらしいのでしょうか？

生徒は自分で考えた個人目標、チームがどこまで勝ち進んでいくかの、チーム目標に向かって日々努力します。

チームの一員として勝つ歯車になるためにどれだけ努力し、どれだけ自分を高め、どれだけ責任を果たせるのかが問われるのです。

厳しい練習をさぼったり、激しい試合の場から逃げ出したいという弱い心と、頑張らなければという気持ちが葛藤することもあります。時には弱気な心に負けることもあるかもしれないが、我慢してやり抜くことを一つひとつ積み重ねていくうちに、人間としての強さが身についてくるのです。

こうした社会性を学ぶことは、長い人生を生き抜くうえでとても大切なことだと思います。教室でも、社会でも簡単には教えられないことを、スポーツはダイレクトに生徒に伝えてくれます。だから、人間教育の場となりえるのです。

たかがスポーツであります、スポーツに真剣に取り組んで得た経験、そして、共に笑ったり泣いたりした仲間との青春時代の思い出は、ダイヤモンドのように強く美しい心を培ってくれます。

失敗や挫折を知ってこそ荒波に耐えられる大人になる

どんな竹にも節があります。もし、竹に節がないまま伸びていったらどうなるでしょう？空洞の幹は横風に耐えられずに曲がったり、折れたりしてしまうでしょう。竹の節は自らが苦難に耐えるために刻んだ成長の証なのです。それは、人間でも同じことがいえるのではないのでしょうか。

今、生徒達は思春期という非常にデリケートな時期にあります。私にも経験がありますが、なにか自分の意のままに運ばないと、一人取り残された気分になり絶望感を味わったりします。そんな時、私は力の限りスポーツをしたり、好きな音楽を聴いたり、夜が更けるまで自分と対話したものです。

今にして思えば、とても精神状態が不安定な時期をそうやって乗り切ることができた私は幸福だったし、支えてくれたいろいろな人に感謝しなければならないと思っています。

だが、最近(急増している少年犯罪が物語るように)自分の気持ちをもてあましたり、何かを訴えたい気持ちの抑制を、キレたり自己中心的な考えしかできずに人間関係を崩したり、過ちを犯してしまう青少年も少なくありません。目の前にある問題から逃げずに、積極的に問題に立ち向かってほしい。

しかし、たとえ失敗したとしても、それにひるまず更に進んでいくことが、この年代にとって1番大切なことです。そこで何かを悟り、糧とすることができれば、もうひとまわり大きな人間になれます。それが生きるうえでの「人の節」となり、困難に耐える人間になれるということです。何の失敗や挫折も知らないまま大人になってしまったら、社会に出てから味わう本当の荒波に、耐えられない大人になってしまいます。今を大切にすることは、3年後、5年後、10年後の自分を大切にすることにつながります。今を充実させるために、生徒にできることは何でしょうか？

自分に矢印を

現代の生徒は、高度快適社会に生きています。欲しいものはほとんど手に入り、個室も与えられています。お兄ちゃんのおさがりだとか、お姉ちゃんと・・・ということも少なくなりました。「自分だけのモノ」を与えられ続けて育った子どもは、空間やモノのみならず、気持ちも他人と「共有」することができなくなります。また、失敗をしたり、壁を乗り越えられないと、他人の責任、学校の責任、社会の責任にしようとする姿ばかりが目につきます。しかし、自分に「矢印」を突き刺すこともせずに言い訳ばかりをしていたところで、次の一步を踏み出すことなどできないでしょう。

新たな活力を生み出すには、矢印を自分に向けること以外に方法はありません。自分に「矢印」を向け、その結果を受けとめる勇気を持つことが大切ではないでしょうか？

自らの意志で体を動かして汗を流し、仲間とともに涙をこぼして感動しあい、そして感謝の気持ちを育み、そういう体験を通して、自分を大切にすることで他人を思いやることのできる、優しい心が形成されていくのではないのでしょうか。

大人の役割

街に出ると、道ばたに座りこんでダラッとしている若者をよく見かけます。彼らを見ると、今生きている時間をどう使えば自分の将来のためになるのか、まったく考えていないように思われます。自分に対する愛情というものがまったく感じられません。なんと、もったいないことか！端から見てこれほど寂しいことはありません。

そういう若者達を見てつくづく思うのは、そばにいる大人がもっと夢を語ってやらなければならぬということです。

「君はもっと頑張れるぞ！！」

「一生懸命やれば、こんなに素晴らしい将来があるんだぞ！！」
自分の可能性を信じ、伸ばしていけたらどんな素晴らしい人間にもなれます。それを本気で思い描き、相手がドキドキするような場面を熱い気持ちで語ってやるのです。そうすればそれを聞いた若者達もきっと、

「よし頑張ってみよう！！」という気持ちになるに違いありません。それが今一番、私達大人に求められているものではないのでしょうか？

子どもは、大人の背中を見て育ちます。でも、大人は今自信をなくしかけています。大人が元気にならなければいけないし、大人が自信を持たなければいけません。

希望に燃えている人間、夢に向かっていく人間は、年齢に関係なくいつもハツラツとしてキラキラ輝いています。

学習について

「勉強に対して真剣に取り組む生徒は、バスケットボールも真剣に取り組むことができる」というのが私の持論です。私が12年前鳴尾高校に転勤してきた頃は、少しばかり厳しい練習をすると「眠くなり学習時間が取れない」「勉強に打ち込めない」という理由で、部を去る生徒がいました。真剣さに欠ける生徒は、部をやめたとしても成績は伸びたりしません。逆に、クラブを去っていった生徒の大半が成績が下がってしまっています。何らかの理由をつけて、仲間や自分が今まで一生懸命に打ち込んできたものを、ないがしろにしてしまう生き方をする人が生き残れる時代ではありません。ですから、生徒が不安になった時こそ「あなたなら大丈夫、頑張きなさい、自分を信じなさい」といえる親御さんであってほしいと願います。生徒が出した安易な結論を「子どもの意志」と勘違いして尊重してしまう親御さんが（バスケット部とは関係なく）多いような気がします。それは、「子どもの一時的な気持ち」にすぎないのに……。大切なことは、生徒を少々のことではへこたれない強い精神力を持った元気ハツラツの若者に育てることです。人生を自分で歩いていく力をつけさせることです。

保護者の方へ

生徒達の取り組むバスケットボールがどんなものなのか。また、生徒達がどんな気持ちで取り組んでいるのかを見ていただきたいと思います。練習・練習試合・公式試合などに足を運んで下さい。見ていただければ勇氣あふれるプレーに感動することでしょう。その顔はけっして家で勉強していたり、テレビをみていたりするときは違うはずです。これは生徒が何年生であるとか、正選手であるかどうかは関係ありません。保護者の方がクラブを見に来られるのは一つの責任であり、義務のような気がします。（生意気な言い方で申し訳ありません）プレーの経験はなくても、ご自身の経験に照らし合わせて、バスケットボール（スポーツ）の精神を教えてやることは十分可能だと思います。

バスケットボールは見るだけでも、大変エキサイティングなスポーツです。上級生のご父兄の中にも、試合を見るうちにバスケットボールが大好きになった方がたくさんおられます。保護者同士の絆も、自然に生まれてくることもしばしばあります。親同士のつながりが、生徒の苦しい時でも仲間と頑張っていこうと、前向きに考えるための背景になっている場合が多いのです。

ぜひ、試合観戦をしていただきたいと思います。

体育館は、「心を成長させる最高の場」である。

顧問 寺井俊之